



南太秦だより

令和5年度前期学校評価結果

令和5年度前期学校評価結果 臨時号

京都市立南太秦小学校

校長 上田 清乃

「南太秦小学校の教育に関するアンケート」をまとめたのでご報告いたします。今年度よりアンケートの回答方法の基本形式をWeb回答とさせていただきました。今年度から新しい形式でのアンケート回答となりましたが、ご協力ありがとうございました。

アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つに分け、今年度前期の学校生活や学習の様子について、傾向をまとめ、考察しました。児童、保護者、教職員の三者それぞれの立場からの評価であるため、単純に比較できない要素もあり、差が生じている項目もありますが、子どもの姿を通して、今後の子たちへの関わりを見直す機会として学校評価の結果をとらえていきたいと考えています。

確かな学力

自ら学び、進んで表現する子

■ そう思う

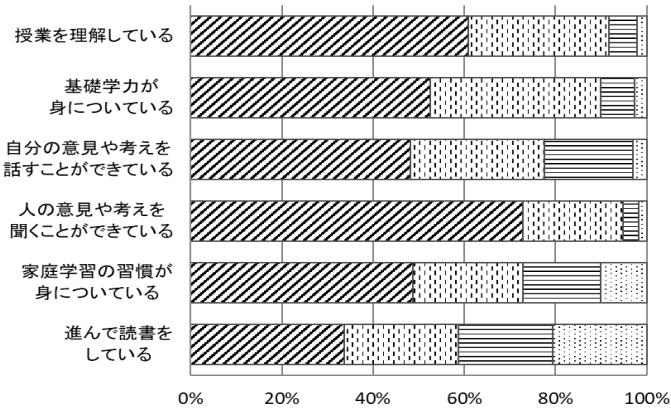
□ 大体そう思う

■ あまりそう思わない

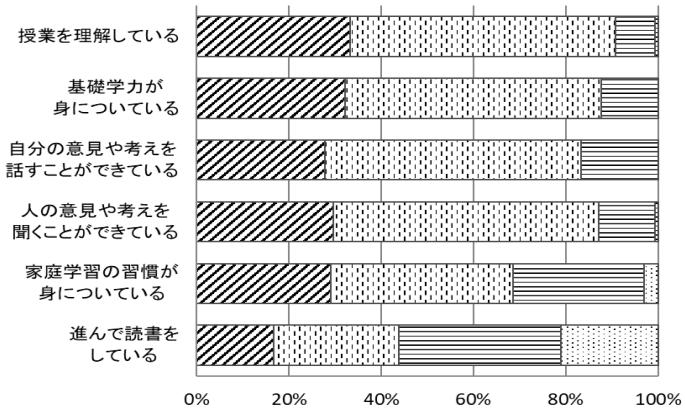
■ そう思わない

学力に関する6つの項目について、それぞれの割合を表しています。

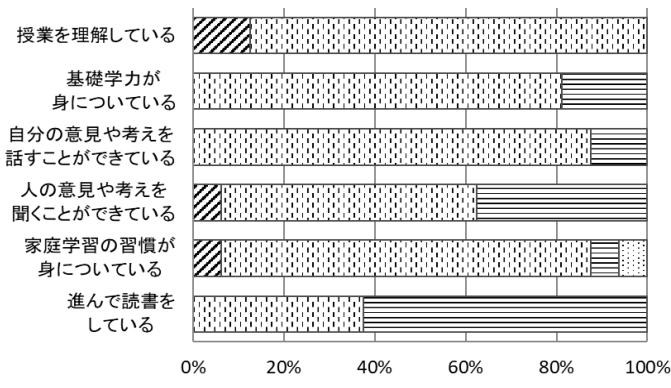
児童



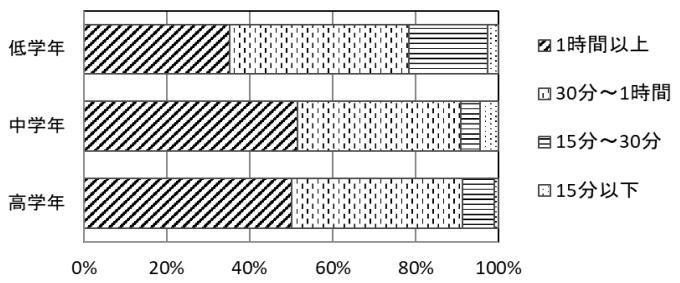
保護者



教職員



家庭学習の時間（児童回答）



◆家庭学習の時間の目安は15分×学年です。

「確かな学力」についてのアンケートでは、「そう思う」「大体そう思う」を合わせた肯定的評価が8割～9割となっている項目が多く、特に「授業理解」「基礎学力」の2項目において、児童は肯定的評価がどちらも約9割となっていました。この項目では児童の「そう思う」が全体の半数を超えており、自己評価の高さがみられます。保護者回答の特徴としては、4項目の肯定的評価が8割を超えるものの、いずれも「そう思う」の回答よりも「大体そう思う」が肯定的評価のうちの半数を超えているという点が挙げられます。また、他と比べて評価が低かった回答は、児童・保護者の「家庭学習の習慣」「進んで読書」、児童の「意見や考えを話す」の項目で、昨年度と同様の傾向が表していました。

上記のアンケート結果から、学習・基礎学力については、「学力向上チーム」を中心として授業改善を目標として取り組んできたことが、自信を持って学習に取り組む姿に少しずつ結びついているということが考えられます。た

だ、教職員の評価は「大体そう思う」が大半を占めており、児童の自己評価の低い回答が存在することにもしっかりと目を向けていく必要があります。今後もより一層の授業改善を進めていきたいと思います。

また、児童・保護者の評価で比較的低かった「意見や考えを話すこと」については、教職員の評価はやや高く出ており、教職員が思っているよりも、児童の多くに人前で話すことへの苦手意識が存在するとも考えられます。今後も、授業のなかでのペアトーク、グループトーク、全体での発表といった場の設定を意図的に行い、相手に伝えるための話すスキルについても学習し、自信を持って話すことへつなげていきたいと思います。そして以前評価の低い「家庭学習」と「読書」ですが、昨年度の前期と後期の比較ではやや上昇傾向にあり、今年度前期でもその状態は維持できている状況ではあります。しかし依然として低い結果が続いている、特に読書については教職員の評価も非常に低くなっています。朝の読書タイム等の決まった時間での取組では、子どもたちはそれぞれ本を手に取り静かに読書を行っているのですが、それ以外の時間や家庭では他にやりたいこと、やらなくてはいけないことが多くあるようで、自分から読書をすることはなかなか難しいようです。また、家庭学習については、高学年において学年に応じた学習時間になっていない様子がみられました。これら本校の課題については、「家庭学習の進め方についての再確認や指導」、「読み聞かせ等読書活動の充実」「親子読書タイム」など家庭との連携を通した取組を行い、さらなる改善を進めていければと考えています。

豊かな心

多様な価値観を認め、互いに尊重し合う子

学校生活に関わる8つの項目について、それぞれの割合を表しています。

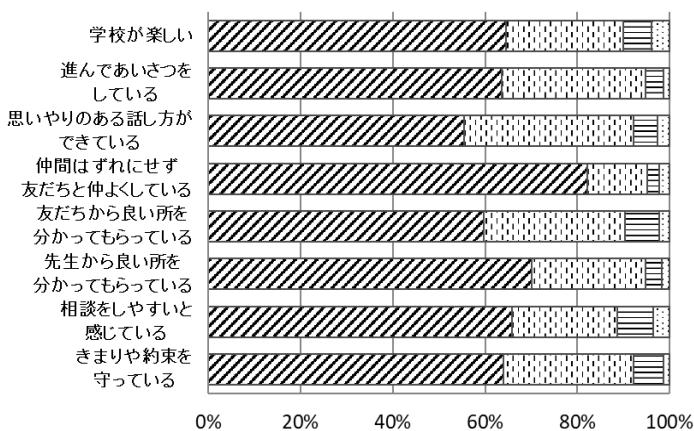
■ そう思う

■ 大体そう思う

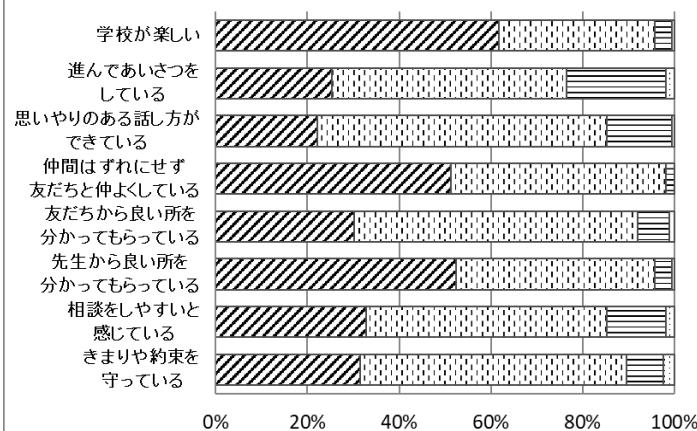
■ あまりそう思わない

■ そう思わない

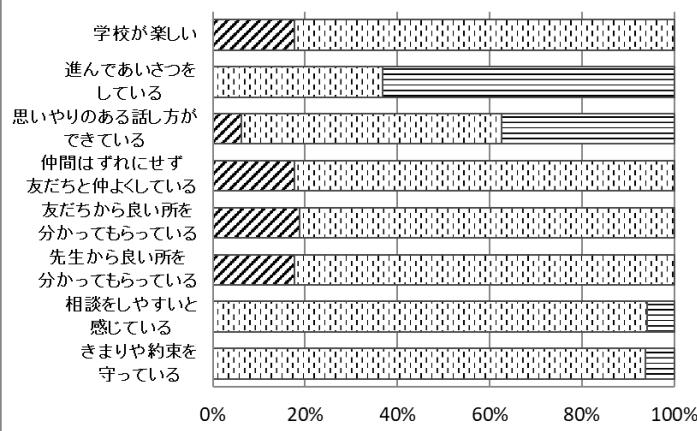
児童



保護者



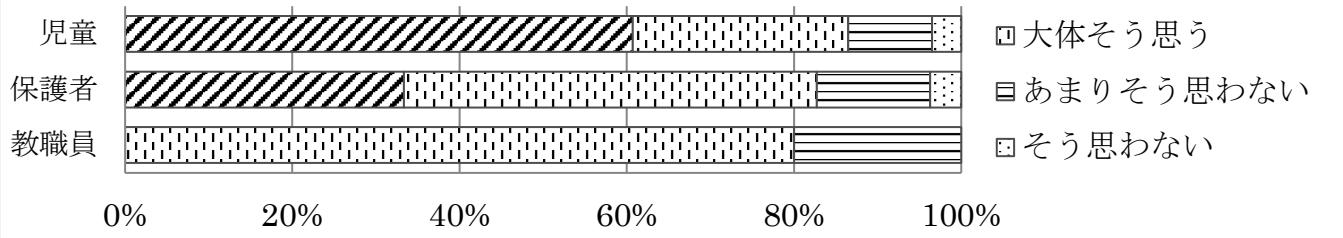
教職員



全体的に約9割の高い評価がみられました。特に「学校が楽しい」については保護者・児童とともに肯定的評価が90~95%であり、そのうち「そう思う」の回答が6割を超えていました。学校生活に満足できている様子がうかがえ喜ばしく思います。「進んであいさつを…」については、児童が94%と自己評価が高いことに對して、保護者・教職員の評価がやや低めの結果となっていました。ただ、昨年度末の結果と比較すると上昇している様子が見られるので、学校全体や児童会の取り組み、地域の方や保護者の方の働きかけが徐々にあいさつの習慣づけに結びついていくと考えられます。今年度も児童会の児童を中心に、児童が主体的に「進んで挨拶ができる工夫」を考えながら「あいさつ運動」に取り組んでいます。今後も、「相手を見て」「しっかり声を届けて」といった具体的な姿勢を伝えつつ、児童会を中心に子どもたちから挨拶の意識を広げていけるよう、取組を続けていきたいと考えています。



規則正しい生活を送っている



就寝の様子

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
①	50.0%	45.4%	51.2%	47.4%	66.3%	35.0%
②	27.5%	28.6%	20.0%	33.3%	26.3%	39.0%
③	22.5%	26.0%	28.8%	19.3%	7.4%	26.0%



- ①…低学年9時までに 中学年9時半までに 高学年10時までに就寝
 ②…低学年9時半までに 中学年10時までに 高学年11時までに就寝
 ③…低学年9時半以降に 中学年10時以降に 高学年11時以降に就寝

目標就寝時刻

起床の様子

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
①	71.9%	70.8%	81.9%	76.3%	69.4%	66.0%
②	28.1%	21.6%	16.3%	16.3%	25.6%	27.5%
③	0%	7.6%	1.8%	7.4%	5.0%	6.5%



- ①…7時までに起床 ②…7時半までに起床 ③…7時半以降に起床

朝食摂取の様子

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
99.4%	99.5%	96.9%	97.7%	96.0%	97.0%

「規則正しい生活を送っている」の項目では、いずれの立場での回答も「そう思う、大体そう思う」の回答が8割以上となっていました。全体として、大きく生活リズムが崩れているといった様子は見られませんが、大型連休後に実施した「生活リズム調べ」をみると、目標就寝時刻までに就寝している児童は4～5割程度となっており、半数近くが目標就寝時刻よりも30分～1時間遅い就寝時刻となっていました。起床については各学年約7割以上の児童が7時までに起床しており、朝食摂取の様子はどの学年もほぼ100%近くが毎朝、朝食を食べていました。

就寝時間が遅くなる理由は、就寝前までスマホやタブレット、ゲームなどをしていることや、兄弟・家族が遅くまで起きていてそれに合わせて起きてしまっていることなどが考えられます。就寝時間の遅さに対して7時起床の児童の割合が多いのも気になります。寝不足気味で登校していることが考えられ、保健室へ体調不良で来室する児童の多くが就寝時間の遅い様子がみられます。学習に集中して、楽しく元気に学校生活を過ごすためにも、スマホやゲームについての家庭でのルールづくりやしっかりと睡眠がとれる生活習慣作りを行うことが大切です。

保護者の皆様より　自由記述（一部抜粋）

- 苦手なこともあるけれど楽しく通えており、家でも素直な気持ちを聞かせてくれていると感じています。不得意だと感じることへも本人なりの努力があり、達成したい前向きな気持ちを持っているので親としては励ましていくつもりです。今後ともよろしくお願ひします。
- スクールカウンセラーを利用して貰い、親子とも助かっています。個人懇談や、学校休んだ時も、担任の先生から連絡があるので、何かあれば相談しやすい。授業で理解しきれていない単元でも、宿題や空き時間のプリント学習で復習してだんだんと理解していく環境が有難いです。
- 最近は通学路ではないところを通っている子や、本来その子が通るところではない道を通学している子を見受けるようになった。(以前は学年が上がるほどそういう子が居るようだったが最近はその限りではないように思う。)
- 高学年になると平日は 6 時間授業と習い事の関係もあり、ゆっくり家庭学習に取り組む時間が少ないですが、休みの日を利用して家庭学習に取り組む姿も見られます。
- 先生に言いたい事がまだ言えない時があるが、人見知りや恥ずかしがりやの性格からきているようです。
- 「学校大好き。友達大好き。勉強難しい時もあるけど、分かると嬉しい。」と毎日口にしています。親としてこんなに嬉しい事はありません。ありがとうございます。帰宅後も、友達と遊んでくる！と言って元気に出掛けます。大好きなお友達が学校欠席した時は、大丈夫かな、明日は来てくれるかなと、心配している様子でした。

「学校が楽しい」ということは、子どもたちにとっても、保護者の方にとっても、非常に重要なことだと思います。何かしらのストレスは、ある程度は心の成長のために必要ではあります
が、それらのストレスに打ち勝っていくための土台のひとつに、「日々の生活の楽しさ」が支えとして必要であると思います。教職員としてはこの「学校の楽しさ」を、人とのかかわりや様々な学習、主体的な活動などを通じて感じられるようにしていきたいと考えております。

今回ご協力いただきました学校評価の結果を通して、進めるべきところはより一層進め、課題が見えてきたところは学校全体で共有し、今年度後半の学校教育の改善が進められるように取り組んでいきたいと思います。

学校運営協議会理事の皆様より（一部抜粋）

- 「学校が楽しい」そう思う回答が多かったことはとても良いことだと思います。あいさつも児童だけに求めるのではなく、もっと大人からも根気よく、家庭内でも、外出先でも、心掛けられるとよいと思います。
- 読書については、親や兄弟で本を読む習慣をつけることが大事です。読む楽しさ・面白さがいつしか身についてくるものだとおもいます。
- 友達の良いところを理解することで、よりよい人間関係が築けると思います。
- 「学校は楽しい」について、好意見が多いのは喜ばしい事ですが、「そう思わない」が少数ですが有るのが気になります。
- 「おはよう」だけが挨拶と思っている児童もいるかもしれません。毎日の生活の中には挨拶の言葉がたくさんあります。日常生活の中で定着できるようにと願っています。
- 子どもの睡眠については、ご家庭でしっかりとルールづくりをしていただき、ゲームやスマホで睡眠不足に陥らないよう、そして朝はゆっくりと朝食を摂れるように起床することを、ご家庭でしっかりと守っていただきたいと思います。
- 「規則正しい生活」については、それぞれ考へている基準が変わってきているように思えます。各家庭によって、事情があるとは思いますが、「親中心」になりがちな生活リズムとなっているのであれば、「子供中心」に近づけて頂けたらと考えます。

多数のご意見、ありがとうございました。保護者の皆様、学校運営協議会の皆様からいただいたご意見を校内でも共有し、引き続き改善を進めていきたいと思います。今後も、より一層のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。